

受講番号 19017 学校名 高知工業高等学校 氏名 梶原 歩美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 電気科 生徒数 33 名
科目名 英語 I 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 BIG DIPPER English Course I

クラスの様子・特徴

音読活動のよくできるクラスで、授業にもまじめに取り組むことのできる生徒たちである。しかし、英語が嫌いであるという生徒がクラスの半数を占めており、英語が好きであるという生徒は3名のみである。

問題の確定

文法力をつけたいという希望が一番多く、まずは英語の語順を理解したうえで、その力をつけることを目標にしたい。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
大きな声で音読のできるクラスであり、特にペア活動が活発にできるクラスであるが、文法学習となるとその元気が半減してしまうところがある。中学校での学習内容がなんとなく分かっているが、しっかりと定着はしていない。	授業に対する意見は概ね肯定的で、分かりやすい、楽しいといった意見をくれている。また、クラスの雰囲気もよく、積極的に音読のできる生徒が多い。しかし、中には音読が疲れる、英語は難しい、ほとんど分からないという声もある。	4月課題テスト:78.5 6月中間テスト:87 7月期末テスト:82.9 並び替え問題[平均6語程度で、進行形、助動詞、受け身といった既習文法事項を含む肯定文や疑問文] 正答率45.1% (解答のあった問題のみの場合 69.7%)

リサーチ・クエスト

音読を活用し、英語の語順や教科書中で用いられている文法事項を定着させるにはどうすればよいか

仮説・実践・検証

仮説1	⇒	実践1	⇒	検証1
さまざまな音読活動を取り入れ、何度も英文を読むことによって、英語の語順に慣れよう。		リピーティング、フレーズリーディング、read and look up やshadowingなどを取り入れて音読活動を行った。また音読テストを暗唱テストとして、各レッスンごとに30～40語程度の文を設定し、1人ずつ実施した。		予定より音読にかかる時間が少なくなってしまう、その効果は判断しがたいが、生徒たちの音読する声は大きく、積極的に取り組んでいる。また、暗唱テストについては、文構成まで考えず、その場しのぎで、記号のように暗記するだけになっている生徒が見られたので、選り出す文やテストの実施方法などの工夫が必要である。
仮説2	⇒	実践2	⇒	検証2
学習する文法が使われている英文を音読筆写し、繰り返し練習問題を解くことで、その文法事項が身につくだろう。		当初は、文法事項を含む英文を音読筆写して覚え、練習問題を繰り返し解くように計画をしていたが、実際は授業中に練習問題を解き、解説を行った後、宿題として自分で選んだ文を音読筆写して覚えるようにした。		音読筆写を授業中にすることができず、宿題としたため、全員に徹底させることができなかった。ただ、ある文を覚えていても、少し単語が変わるだけで同じ文型のもので、並び替えることができなくなってしまう生徒が多く、音のリズムや単語だけで覚えてしまっているところがあるのではないと思う。音読筆写をするにしても段階をふんで行うことが大切であると感じた。
仮説3	⇒	実践3	⇒	検証3
問題集を使って文法の補足学習を行えば、文法事項の定着が進むだろう。		副教材として全員が持っているHarvestの文法問題集の一部を課題として宿題にし、提出させた。		課題の提出をクラス全体の取り組みとしてやろうとしたために、1度しかできなかった。添削のような形で一人ひとりのペースを進めるという方法をとっておけばよかったのかもしれないが、家庭学習の習慣自体が身につけていないという問題もあり、何らかの動機付けを工夫しなければならぬと思う。ただ、基本的なことが理解できていない生徒が多く、疑問文の作り方から再度学習し、英語の文構成や語順の定着を図る必要がある。

研究の成果

すべての実践が中途半端になってしまい、仮説が正しかったのかどうか分からない結果となったが、並び替え問題の解答から、それぞれの文やフレーズの単語の並びだけで覚え、文構成まで考えることができていないということが分かった。そういった、生徒たちが点で覚えているものを線でつなげることができれば、もう少し幅が広がるのではないと思う。

またアンケートには、「英語が少し分かってきた」、「勉強したらもっとよくなると分かった」という意見があり、少しでも生徒たちの変化を感じることができた。

今後の授業改善の課題

目標としていた語順や文法事項が依然として身につけていないことが課題であるが、3学期は、カードの並び替えて語順を考えさせたり、文構成を理解したうえで音読筆写などを試みたいと考えている。また、家庭学習を少しでも習慣化させることや、アンケートやテストの結果から、生徒たちの目の前の壁となっている「単語を書くこと」にも目を向けながら授業改善を進めていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-831-9171

電子メール